



第13号 2011年12月15日発行
五ヶ瀬川の豊堤を守る会

性鳥インフルエンザが発生しました。

大変お待たせいたしました、年1回の「空飛ぶ豊」13号の発行でございます。さて、昨年から今年にかけての本県は、決して良い年であったとは思えない状況でした。3月には口蹄疫が発生し、牛、豚、水牛約28万9000頭が殺処分されました。その損失は2400億円とも言われています。やっと8月末に口蹄疫の終息宣言がなされたかと思つた矢先、今度は、高病原



さらに、今年の1月には鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島連山の新燃岳が52年ぶりに噴火しその灰が延岡市まで降りました。まさに天災の恐ろしさをまざまざと見せつけられた年でした。なぜ宮崎県ばかりがこんなに災害が多いのだろう、呪われた県ではないか等々と話しておりました。

支え合う絆の大切さを痛感

災害が相次いだ1年を振り返る

そういう時に、3月11日東日本大震災が起こりました。被災されました方々に対して、心から哀悼の念を捧げます。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震とそれにもなつて発生した大津波です。報道の映像

対処法が分からないだけに一番恐ろしい被災事故ではないかと思われまふ。私達の住んでいる延岡市も東南海地震や日向灘地震等がいつ来るか分かりません。東日本大震災は他人ごとではなく身近な私達の問題であります。

今回の大震災は、お互いに支え合い助け合う絆の大切さを教えてくれました。

を見ますと、ほんの数分で濁流にのまれ、人、家、車、ありとあらゆるものすべてが破壊され、流されました。人間の力のはかなさや無力さを強く認識させられた一瞬でした。

堤が教えてくれた教訓の一つでもあります。昔の人々が自分たちの町を協働で洪水から守った、その生きる勇気を象徴するものが「豊堤」ではないかと今回改めて感じました。

さらにその上、津波に破壊された原子力発電所が制御不能となり放射能汚染問題が発生しました。放射能は、目に見えなく

今後とも会員の皆様と共に、この教えを後世に伝えていく活動が続けていきたいと思います。いと切に思つた次第です。

会長 木原 万里子

延岡市防災フェスタに参加

守る会の活動をPRしました

「第4回延岡市防災フェスタ」が11月20日、同市野地町の消防庁舎であり、本会も防災を啓発する市民団体の一つとしてブースを出しました（写真①）。東日本大震災以降、防災に対する意識が高ま

っていることを反映してか、この日は、ほかの場所でもさまざまなイベントが開かれていたにもかかわらず、多くの来場がありました。

開会式で首藤正治市長は「8カ月前は、津波のことなど考えもしなかったと思う。震災はいかに普段の備えが大事かを教えてくれた。『津波の時にはどこに逃げよう』など、

家族で考えてほしい」と呼び掛けました。

本会のブースでは、

畳堤の大型模型や紙芝居、実物の写真パネルなどを展示し、「畳堤サブレ」を販売しました。持参したCDラジカセで、桃木まほさんの歌う「畳堤の詩」を流し、上田耕市副会長が紙芝居を実演（写真③）するなどして、

本会の活動をPRしました。ブースを訪れた方々は、畳堤の写真を見ながら、私達の説明を熱心に聞いてくださいました（写真②右から2人目、説明する岡田光直役員）。

猪狩会員が大活躍

また、本会の猪狩信浩会員が県会長を務める「防災士ネットワーク県北支部」が、防災フェスタの開会イベントで防災劇を披露しました。津波に対してどのような心構えが

大事か、とても分かりやすく表現されていましたので紹介します。

舞台は中学校の教室（とても中学生と思えない生徒たちでしたが）。猪狩会員扮する先生が授業をしていた時に大地震が起きました。

「地震が起きたら、まず自分を守るために机の下に隠れる」と学んでいた生徒たちは、机の下に潜り込みました。続いて「大地震の後は、大津波が10分以内に来る。すぐに3階以上の丈夫な建物に逃げる。間違っても海の方に

逃げてはいけない」と学んでいた生徒たちは、素早く逃げました。

ところが猪狩先生は「なーに、まだ警報も出てないから大丈夫じゃろ」と余裕しゃくしゃく。そこにブルーシートが波打ちながらやって来て、猪狩先生は飲み込まれてしまいました（写真④⑤）。

「津波は、警報が出てから行動したのでは遅い」と強烈にアピールした劇でした。猪狩会員をはじめ防災士の皆さんの熱演に、大きな拍手が送られていました。



豊堤モニュメント

周辺を清掃しました

8月4日、橋の日

「橋の日」発祥の地である延岡で、今年も8月4日に橋の日の記念イベントがありました。平成19年以降、亀井橋周辺が会場になっていましたが、26回目の今年は、4年ぶりに新安

賀多橋での開催となりました。本会は、役員が中心となって、北町の豊堤モニュメント周辺の除草と清掃を行い、その後、新安賀多橋でのイベントに参加しました。

橋の日のように、他団体からイベントへの参加依頼を受けた場合、現在はおほとんど役員だけが参加していますが、今後は多くの会員



北町の豊堤モニュメント

紙芝居を利用

してみませんか

本会が平成17年に企画、立案し、国交省延岡河川国道事務所が発行した紙芝居「豊でまちを守ったおはなし」(西本師子前会長原作)は、延岡市立図書館で貸し出しができます。中身は一般の図書と同じ方法で簡単に借りられますし、絵をは

め入れる舞台も、台帳に名前を記入すれば借りられます。子ども会の読み聞かせなどにぜひご利用ください。(紙芝居の写真は2ページ右下③)

編集後記

編集会議の中で聞いた河童の話や子供時代の川遊びの思い出がとても面白く、いつかこの紙面に反映できたら

と思いました。皆様、河童と出会った経験などありましたらぜひご投稿ください。(ぬ)

豊堤ネットワークをつくらう



も思ったりした。

「豊が堤防の役割をして水を防ぐ」と初めて聞いた時は、

正直言って驚いた。水が入ってくるのを人間が支えるのか、はたまた石を積み上げて、それに豊を寝かせて防ぐのかと

しかし豊堤を見て、単純な

造りの中に、豊をうまくはめ込み、景観もうまく残している先人の知恵に驚き、同時に現代人ではできない発想だと思った。

これが造られたのは昭和の初期だと聞いている。当時の交通の要は船だったことが記録に残って

いる。街の人々は夕方になると浴衣を羽織り、うちわを使いながら夕涼みの風情を楽しんだに違いない。

しかし、今でも同じだが、五ヶ瀬川は時折折牙をむいて街の人を困らせる。

今なら、堤防を高くして川との関係を遮断する方法を先に考えるに違いない。

しかし先人は、川の暴れが引いたら豊を取り払い、また元の

優しい五ヶ

瀬川との付き合いを始める。豊堤の存在が、当時ののどかな暮らしぶりを連想させる。今、五ヶ瀬川、揖保川(兵庫県)、長良川(岐阜県)に豊堤が残っている。この優しい、風雅な防災遺産が存在する街同士でネットワークを組んで、たくさんの人に伝え、後世に残していけないものだろうか。防災・郷土・福祉をキーワードにして。

矢野 光孝

(豊堤を守る会役員)

五ヶ瀬川の豊堤を守る会

事務局 社会福祉法人光紀会ひかり工房内

矢野 光孝

〒882-0063

宮崎県延岡市古川町74番地1

TEL 0982-34-1389

FAX 0982-23-1617

コラム

「畳堤紹介DVD」(仮称) 制作を計画中

その意義は？ 改めて考えてみました

副会長 上田 耕市

畳堤の今を動画で記録し紹介するDVDを作成する企画は、昨年度の総会で承認を受けましたが、いまだ実行されていません。そこで当企画の意味を、この「会報・空飛ぶ畳」で改めて考えてみたいと思います。

畳堤のことを知らない人がまだ多いのはなぜだろう？

原因として考えられることは

- ①「畳堤」という言葉を聞いたことがない。
- ②場所が限られているから見たことがない。
- ③何気なく見ており、それが「畳堤」だと気づいていない。
- ④小学校や中学校で教わらない。
- ⑤親も祖父母も知らないの
- ⑥五ヶ瀬川の畳堤を守る会(以下守る会)をはじめ啓発

団体の活動が市民に伝わっていない。

：などが挙げられます。

畳堤を紹介・説明するには、現地で説明会を開くのが最適ですが、「畳堤」を意識していない人が多いこの状況では、こういう場面を設けること自体が難しいでしょう。

これまで守る会では

- ①紙芝居の制作と実演、図書館、小学校への寄贈
- ②畳堤のテーマ曲「畳堤の詩」CD制作と販売
- ③畳堤のテーマ菓子「畳堤サブレ」製造・販売に協力
- ④国交省延岡河川国道事務



畳堤サブレ。製造発売元は、ひかり工房。
畳堤の模型・紹介パンフも同封されている

所と連携して、畳堤紹介パンフレット「謎の畳堤」を製作し、市民へ配布

⑤市民防災フォーラム主催

⑥市民防災フェスタ参加

⑦「橋の日」イベント参加

：など、さまざまに取り組んできました。しかし、こうしてみると、対象となった市民の層、数が限られていたと思われま

15分間、「起承転結」で分かりやすく

そこで、DVD企画が登場しました。放映時間は15分を予定。現代人が集中力を保てるテレビのCMからCMまでの時間です。この15分以内に、畳堤の過去・現在・未来を、守る会の活動をからめながら「起承転結」でまとめ上げたいと考えています。美しい五ヶ瀬川の流れも、豪雨で荒れ狂う五ヶ瀬川も、洪水の街の様子も、映像は一瞬でその事実を伝えます。守

る会制作・協力の紙芝居、畳堤の詩、畳堤サブレ、畳堤パンフ「謎の畳堤」「畳堤マップ」など、全てを短い時間で紹介することができるのも有難いことです。そして、何より「五ヶ瀬川の畳堤を守る」ということがどんな意味を持つのかを、DVDを見る人が、知らず知らずのうちに考えてくれることになりま

「五ヶ瀬川の畳堤」

を象徴とする、先人の愛郷心と柔軟な発想、繊細な美意識を受け継いで、郷土延岡の防災と発展に微力なりとも貢献しよう

と集った、我らは「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」。

「楽しくて為になる」が合言葉。

さあ、今年度中に、この畳堤DVD制作に着手し、来年度には完成させて、延岡人に「感動と感謝の心」を伝えていきたいと思います！